

青森県の保育所におけるアレルギーの実態について

瀧澤 透

(八戸大学人間健康学部)

キーワード：保育所，アレルギー疾患，青森県，二次保健医療圏

【目的】

保育所におけるアレルギーの実態を把握することは、予防施策や環境づくりに欠かせない。本研究は青森県内の認可保育所を対象にアレルギー疾患の実態調査を行い、地域の保育所におけるアレルギー疾患の実態と対応について明らかにすることを目的とする。

【対象と方法】

調査対象は、平成19年4月1日現在に青森県にある全ての認可保育所(479施設)であり、方法は自記式無記名の質問紙を用いた郵送法であった。調査期間は平成20年2月26日～3月25日で、記入は所長、主任、看護師らにしてもらい、回収にはFAXを用いた。調査内容は保育所の規模、アレルギーの種類、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息のそれぞれの状況について、保育所での取り組みについて(預かっている薬剤、保護者への対応、職員の知識)などであった。

【結果】

1. 地域別の回答状況

県全体で回答のあった施設数は163施設(回収率34.0%)、また、入所児数は、1施設の平均73.5人(最小13人、最大152人、最頻値75人)、また、入所児総数は11,978人であった。

県内の6つの二次保健医療圏別にみた回答状況は、津軽地域32施設(27.6%=地域における回収率、以下同じ)、八戸地域(=三八地方、以下同じ)40施設(39.2%)、青森地域26施設(26.0%)、西北五地域22施設(34.9%)、上十三

地域33施設(42.9%)、むつ下北地域8施設(38.1%)、地域不明2であった。

2. 地域別のアレルギー疾患

「あなたの保育所で、現在、アレルギーのある園児はいますか?」と質問をしたところ、147施設(90.2%=回答数に占める割合)が「いる」と回答していた。アレルギー疾患別では、「食物アレルギー」が128施設(78.5%)と最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎」が114施設(69.9%)、「気管支喘息」が91施設(55.8%)と続き、「アレルギー性鼻炎または花粉症」46施設(28.2%)、「アレルギー性結膜炎」10施設(6.1%)、「その他」12施設(7.4%)であった。

主なアレルギー疾患について、地域別にみた疾患児のいる施設数とその割合は、「アトピー性皮膚炎」が青森地域で23施設(88.5%)と児児が多く、また、「気管支喘息」では八戸地域で28施設(70.0%)と多く、統計的に有意な差が見られた(χ^2 検定; $P < 0.05$)。

3. 地域別の対応

「アレルギー疾患用の薬剤を預かっていますか?」の質問では、99施設(60.7%)で預かっていた。地域別では、上十三地域が24施設(72.7%)と最も多く、西北五地域が9施設(40.9%)と最も少なかった。

また、「保護者の不安に対して対応していますか?」の質問では、130施設(79.8%)で対応をしていた。地域別では、むつ下北地域が7施設(87.5%)、上十三地域が27施設(81.8%)、西北五地域が18施設(81.8%)と高く、津軽地域が24施設(75.0%)と最も低かった。

さらに、「職員はアレルギーの知識を十分に

もっていますか？」の質問では、81 施設(49.7%)で「いる」と回答をしていた。地域別では、むつ下北地域が6 施設(75.0%)、上十三地域が20 施設(60.6%)と高く、八戸地域は15 施設(37.5%)と最も少なかった。

【考察】

青森県内の認可保育所におけるアレルギー疾

患の実態および保育施設での対応状況は、二次保健医療圏別に比較検討すると若干の地域差が見られた。一方で、「職員のアレルギーの知識が十分にあり」が県全体で49.7%と半数程度にとどまっていることから、更に取り組みを進めるためにも、保育士らのへ研修の機会や情報提供など、保育所へのサポートが必要な状況であることが示唆された。